



今月の江戸しぐさ「三脱の教え」

三脱の「三」とは「職業、年齢、学歴」の三つをいいます。江戸時代は、人は人としての本質で評価されるべきで、職業、年齢、学歴で判断されるべきではないと考えられていました。

よって職業、年齢、学歴を始めに聞くことは人としての判断を曇らせるものがあるのでタブーとされていました。（情報収集は別です）

病院においては、決まりを守って療養している人は、全て平等だと考えています。患者を肩書きで判断し、特定の患者を特別扱いするような病院であってはならないと考えています。

時々、有名人が病院を退院するときに、医師や看護師から花束をもらって見送られながら退院する光景がテレビであります。その病院は全ての患者にそのようなことをしているのでしょうか。

「三脱の教え」をおまじないにすると、人を肩書きで判断しない、人を見る目が確かになるかもしれません。どうぞご活用を。

※病院の決まりを守れない人や他の患者、職員に迷惑のかかる患者、家族に対しては毅然と対応をする方針です。

発言、行動内容を記録し、事務方に報告して下さい。

トラブルケースとして必要があれば顧問弁護士とともに対処いたします。



※江戸思草は、江戸時代の町民が良いとされること、悪いとされることなどの生活の規範としていたものです。

6歳までに習得すべき事とされていました。

判断の基準は粋かどうかだったようです。

他の国にない、一般庶民の高度な精神性が、当時日本に来た外国人に驚きをあたえていたことが多数記録されています。

ロバート フレデリック ブラム

Robert Frederick Blum

(1857~1903)

日本をこよなく愛したアメリカ人画家。

江戸の風情が強く残っていた明治中期に約2年半訪れ、当時の息づかいさえ感じる作品を残してくれました。

